近畿農政局

農村RMO推進フォーラム

参加無料

住んでみたい・住み続けられる農山漁村づくり

農村・中山間地域等では、高齢化・人口減少の進行により、農業生産活動のみならず集落維持に必要な機能が弱体化しており、集落機能を補完する農村RMOによる地域機能の維持・強化が求められているところです。農村RMOの運営等、取組継続のための仕組みの構築、生活支援分野における既存組織との連携等強化を図ることが重要と考えられます。

当フォーラムでは地域の活性化に取り組む組織・団体から持続的運営に係るノウハウや課題について、事例等を交えてディスカッションを行うことで地域運営の一助となることを目指します。

日時

令和8年12月11日(金)

開会 13:30 ～ 閉会 16:30

定員

会場50名／オンライン100名

農村ＲＭＯモデル形成支援実施地区、都道府県及び市町村の農業・福祉・社会教育・地域づくり等の担当者、ＪＡ、土地改良区、社会福祉協議会、公民館関係者など、農村ＲＭＯの形成推進に取り組む関係者や農村ＲＭＯに興味のある方など。

開催形式

対面及びオンライン同時開催

（ハイブリッド開催）

※オンラインはZoomまたはYouTubeで視聴可能

場所

TKPガーデンシティ京都タワーホテル ４Ｆ バンケット4A

（京都府京都市下京区東塩小路町721-1）

＜アクセスマップ＞



テーマ：これからの持続可能な農村地域づくり～RMO運営の工夫ポイントを考える～

13:30～13:40	開会の挨拶	近畿農政局　京都府
13:40～14:40	基調講演	【演題】多様な主体でつくるこれからの農村地域づくり ～持続可能な仕組みの作り方・考え方～ 【講師】一般財団法人明石コミュニティ創造協会　常務理事 兼 事務局長　柏木登起 氏
14:40～14:50	<休憩>	
14:50～16:20	ディスカッション	【テーマ】これからの持続可能な農村地域づくり～RMO運営の工夫ポイントを考える～ 【コーディネーター】 ・和歌山大学経済学部　教授　岸上 光克 氏 【アドバイザー】 ・一般財団法人明石コミュニティ創造協会　常務理事 兼 事務局長　柏木 登起 氏 【パネラー兼事例発表者】 ・京丹後地域づくり協同組合　代表理事 有限責任事業組合まちの人事企画室　代表　川渕 一清 氏 ・摩気地域振興協議会　総務部会長　小林 康夫 氏 ・総合地球環境学研究所　准教授 事業構想大学院大学　准教授　田村 典江 氏 ・毛原の棚田ワンダービレッジプロジェクト 代表　水口 一也 氏
16:20～16:30	閉会	その他、連絡事項

主催： 近畿農政局　株式会社JTB　　協力：京都府農林水産部農村振興課

裏面もご参照ください

基調講演・アドバイザー

一般財団法人明石コミュニティ創造協会 常務理事 兼 事務局長 **柏木 登起**（かしわぎ とき）氏



1980 年兵庫県明石市生まれ。民間企業を経て、2006 年より NPO に従事。2008 年にシミンズシーズへ移り、2015～2025 年は代表理事。2025 年にシミンズシーズ総合研究所設立。主体的に活動する 「市民」が活躍する市民社会の実現を目指し、コミュニティ・プランナーとして活動する。2012 年からは明石コミュニティ創造協会事務局長。地域自治組織の支援や生涯学習・男女共同参画の推進等にも関わる。2023 年にはひょうご縮充デザイン Lab 設立。

コーディネーター

和歌山大学 経済学部 経済学科 教授 **岸上 光克**（きしがみ みつよし）氏



1977年兵庫県生まれ。和歌山大学経済学部教授、食農総合研究教育センター（センター長）。研究テーマは、専門分野:地域づくり戦略論、食品流通論、都市と農山漁村の交流・協働。

パネラー

京丹後地域づくり協同組合 代表理事
有限責任事業組合まちの人事企画室 代表 **川渕 一清**（かわぶち かずきよ）氏



京都府京丹後市出身。人と人、地域、企業、行政をつなぎ、新たな挑戦を生み出すクリエイティブ人材の発掘・育成・伴走に取り組む。若者が地域やまちづくりに関わる「つくろう！みらいのまち」「LOCAL WORK in Kyotango」「ヨサクエ」等の企画・運営や、地域で自分らしく働くプラットフォーム京丹後地域づくり協同組合「ほむたん」を設立・運営。今年度より京丹後市における特定居住支援法人となり、二地域居住等コーディネート事業にも参画。令和4年度から京都府北部地域において農村RMO伴走支援事業に従事している。

摩気地域振興協議会 総務部会長 **小林 康夫**（こばやし やすお）氏



少子高齢化での児童数減少で平成27年に閉校となった旧摩気小学校を拠点に、同年に「NPO法人摩気高山の郷振興会」が設立され、地域づくり活動を続けてきた。その組織が元となって令和６年に「農村RMO摩気」を設立し、農地保全活動を中心とした持続できる農村づくりに取組んでいる。

総合地球環境学研究所 准教授
事業構想大学院大学 准教授 **田村 典江**（たむら のりえ）氏



大学共同利用機関法人総合地球環境学研究所　准教授　多元世界プロジェクト　プロジェクトリーダー
大学院修了後、民間企業で農林水産や農山漁村をテーマにしたリサーチ・コンサルティングに携わる。その後、2016年、総合地球環境学研究所プロジェクト上級研究員、2022年、事業構想大学院大学専任講師、2025年、同准教授を経て、2025年10月より現職。専門は農林漁業政策、持続可能性科学、コモンズ論。現在は、農林業の多元世界的な未来に向けた転換をテーマに、小規模な農林漁業の多様な価値や持続可能性について探求している。

毛原の棚田ワンダービレッジプロジェクト 代表 **水口 一也**（みずぐち かずや）氏



1958年生まれ。止まらない人口減少から集落機能の維持に危機感を感じ、1000年つづく里づくりを理念に掲げ、2015年に毛原住民と毛原と共に暮らしを考える村外村民により結成した地域活性化グループの代表を務める。食品加工所を整備し、地域資源を活かした商品開発、地域通貨を活用した集落内外の支え合いの仕組みづくり、企業と連携したモデルフォレストやモデルファーム事業、ＩＣＴを活用した見守り・生活支援、活動エリアを小学校区に広げた集落間連携の取組みなど、行政、大学、企業、NPOなど多様な主体との連携を進めながら、地域内外の人材を巻き込んだ持続的な地域運営に取組む。



参加申込

予約サイトからお申込みください

https://japan-gastrotourism-and-trade.com/nouson-rmo/seminar/kinki2026/

お申込締切 ▶▶▶ 2026年 12月4日(金)
※オンライン参加は12月10日（木）17時までお申込みいただけます。

スマートフォンで二次元コードを読取り、または左記URLから必要事項を入力してください。
※定員に達し次第締切

主催 近畿農政局
株式会社JTB

お問合せ 農村RMOフォーラム事務局(株式会社JTB内) 担当：渡辺、竹内（秀）、時枝、秋元
03-6737-9261 nouson-rmo@jtb.com